

学長定例記者会見資料 1

人間発達環境学研究科に「アクティブエイジング研究センター」設立

人間発達環境学研究科 近藤徳彦

人間発達環境学研究科では発達支援インスティテュートにアクティブエイジング研究センターを 2015 年 12 月 1 日に設立いたしました。このセンターはアクティブエイジングを掲げ、高齢化社会の問題解決を産学官民が共同して目指す学際的なセンターです。また、近年高齢化の進行は振興国や発展途上国まで及び、そこで起こる問題の対策が急がれ、社会文化の異なる西欧の例より、日本での施策や研究に熱い視線が注がれています。アジアでのアクティブエイジング研究のリーダーが必要な今、アジアでの拠点 (Hub) を目指します。

人口の高齢化は人類が成し遂げた成果ですが、最大の社会的課題の一つでもあります。日本においては、後期高齢者の増加に伴う要介護者・要支援者・軽度認知障害を持つ人の増加、都市化・核家族化による高齢単身世帯の増加に伴い、介護・医療費の高騰が大きな問題となっています。1999 年、世界保健機関 (WHO) が掲げた「アクティブエイジング (活力ある高齢化)」は、この課題解決に向けた指針として注目されています。これは、高齢者を非生産的な社会的弱者とみる従来の固定観念を打破し、高齢期をより活動的、積極的、可能性のあるライフステージとして捉えながら、加齢を個人の生涯にわたる発達と成熟の過程と認識する意識変革を目指し、その実現に向けて社会的アクションを活性化していくことを目標とするものです。この WHO の指針は日本での高齢化における諸課題の解決策の決め手になると考えられます。

本研究科には、アクティブエイジングを精神的、身体的、社会的側面から総合的に捉え、応用的・実践的研究と、そのベースとなる諸科学 (健康科学、心理学、行動科学、社会科学、環境科学、教育科学など) から研究実績を蓄積してきました。アクティブエイジング研究センターは、これらの学問を結集し、産官学民が共同して先駆的な研究プロジェクトを生み出していく創発点として、活力ある高齢化への様々な可能性を究明し、支援策のグローバルな提案を図ります。

KAARb とは？

人口の高齢化は人類が成し遂げた成果であるとともに、最大の社会的課題の一つでもある。日本においては、後期高齢者の増加に伴う要介護者・要支援者・軽度認知障害を持つ人の増加、都市化・核家族化による高齢単身世帯の増加などに伴い、介護・医療費の高騰が大きな問題となっている。1999年、世界保健機関(WHO)が掲げた「アクティブエイジング(活力ある高齢化)」は、この課題解決に向けた指針として注目される。これは、高齢者を虚弱で非生産的な社会的弱者とみる従来の固定観念を打破し、高齢期をより活動的、積極的、可能性のあるライフステージとして捉えながら、加齢を個人の生涯にわたる発達と成熟の過程と認識する意識変革を目指し、その実現に向けて社会的アクションを活性化していくことを目標とするものである。このWHOの指針は日本での高齢化における諸課題の解決策の決め手になると考えられる。

本研究科には、アクティブエイジングを精神的、身体的、社会的側面から総合的に捉え包括的な活性化を探索する応用的・実践的研究と、そのベースとなる諸科学(健康科学、心理学、行動科学、社会科学、環境科学、教育科学など)からの研究実績が蓄積されてきた。

アクティブエイジング研究センターは、これらの学問的営為を結集し、先駆的な研究プロジェクトを生み出していく創発点として、活力ある高齢化への様々な可能性を究明し、支援策のグローバルな提案を含め積極的な社会実装を図る。

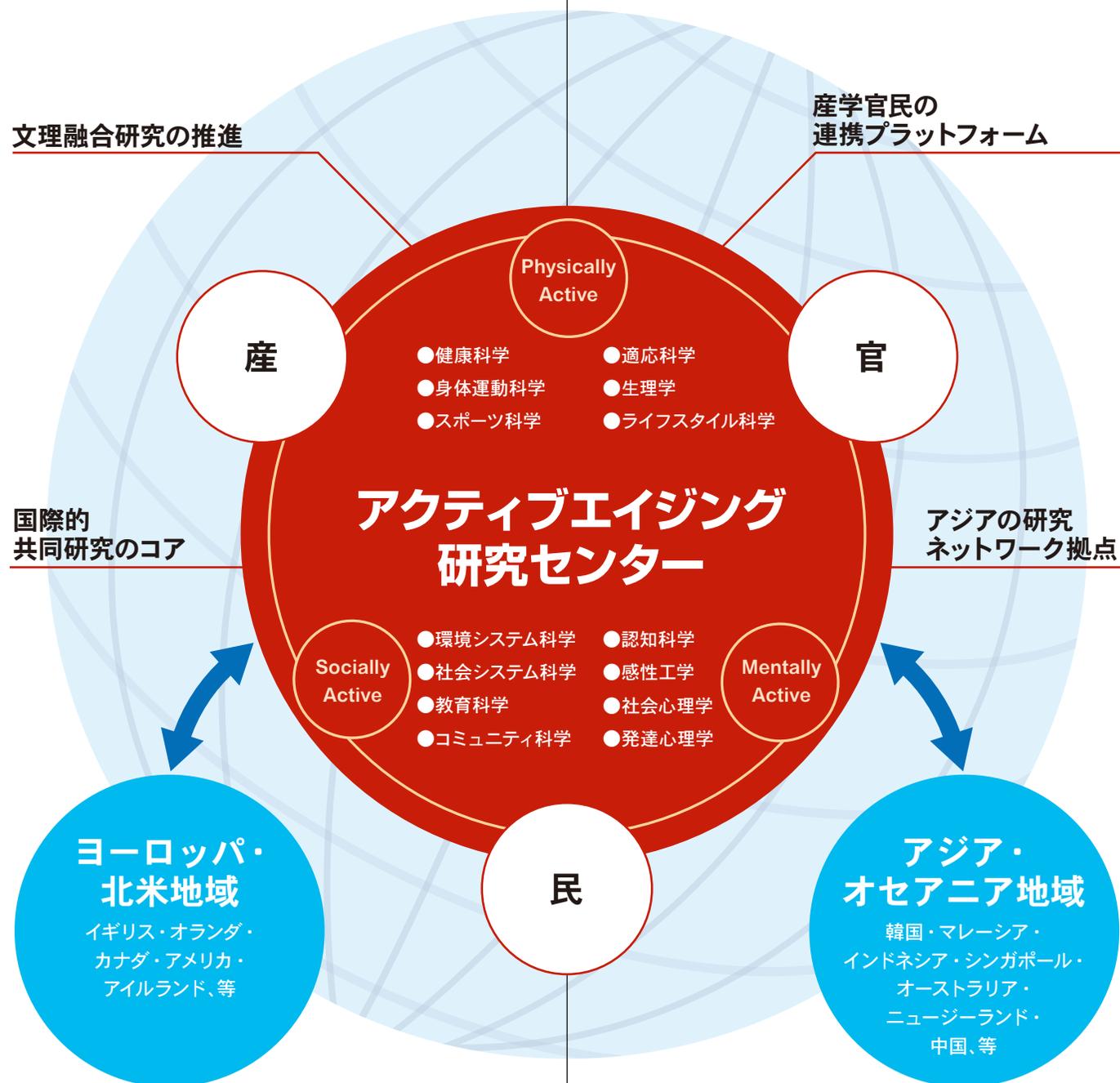
アクティブエイジング研究センター 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科
アクティブエイジングプロジェクト室(A棟1階 A118)
Tel & Fax.078-803-7963
Mail: kaarb@h.kobe-u.ac.jp

KAARb
Kobe Active Aging Research Hub
The Graduate School of Human Development and Environment,
Kobe University

アクティブエイジング研究センター
神戸大学大学院 人間発達環境学研究科

加齢に伴う諸課題を産学官民から解決するために。



センターの目標と主要事業

センターは、高齢化の進行に伴う課題の解決に資するためのアクティブエイジングに関わる先端的研究を創発し、本研究分野の活性化と社会的還元を目指していくことを設立時の目標として掲げ、その達成に向けて以下の主要事業を展開します。

1. 研究開発事業

●リーディング研究プロジェクトの実施と拡大 ●新規シーズ研究プロジェクトの始動支援 ●国際共同研究プロジェクトの計画化と始動 ●民間・行政委託研究の受託 ●大型競争研究資金獲得によるプロジェクト研究創出

2. 研究発信事業

●センター主催研究シンポジウムの開催 ●関連学会における研究成果の発表 ●WEB・デジタル・マスメディアを通じた研究成果配信 ●研究論文・書籍出版 ●アクティブエイジング関連政策・施策への提言

3. 研究支援事業

●研究コンサルティングの受託と政策提言 ●アクティブエイジング研究者育成 ●関連国際・アジア学会の招致 ●関連国内学会の共催・後援・協力 ●アジアアクティブエイジング学会(仮称)事務局設立

4. 研究ネットワーク事業

●国内外の大学・研究団体研究者の招聘・連携 ●国内外の関連研究センター・推進機関との連携化 ●民間・行政セクターからのセンター研究員 ●産官民学コンソーシアムによる研究会開催 ●研究情報ネットワークによる研究成果の共有化

研究ハブ(結節)拠点形成に向けて

センターの目標と主要事業を展開するためのプラットフォームとして、以下の学際性、国際性、職際性をテーマとする研究ハブ拠点機能を向上させ、先駆的な研究を創発し発信していくための結節点としてセンターの活性化を図ります。

1. 学際的研究ハブ拠点

●アクティブエイジングを個人から文化レベルまでの多面的・総合的現象の中で捉え、複眼的視座と科学を結節した新たな基礎研究・応用研究を創発する

2. 国際的研究ハブ拠点

●高齢化というグローバルな課題に対する世界的視野からの研究推進と社会還元を目指し、特にアジアの視点から世界に向けてアジア創発研究を発信する

3. 職際的研究ハブ拠点

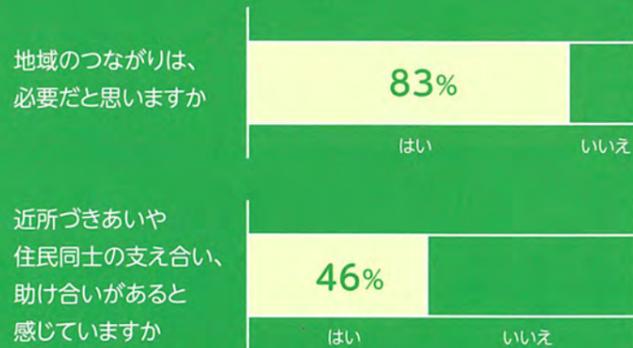
●産官民学の垣根を越えて共同研究を促進し、研究活動を活性化させる結節点として、課題解決に直結する研究成果の社会的還元を加速化させる

鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトのねらい

地域と大学のチカラを融合 すこやかに、安心して 生活できるまちづくりを

高齢化が進む中、さまざまな世代がすこやかに、安全に暮らせるまちづくりを行うことは急務です。六甲山系の中腹にあり、人口約5100人の神戸市灘区鶴甲地区は、その31.7%が65歳以上。住民アンケートの結果、「隣近所とのつきあいが少ない」「世代間交流が少ない」「災害時の安全性が不安」などの問題点が浮かび上がり、「健康志向が高い」「趣味や学習の場を求めている」こと、大学と連携した活動を望む声が多いことも明らかになりました。そこで誕生したのが「鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト」。地域と大学のチカラをいかし、心身共にすこやかに、より安全に暮らせるまちづくりをめざす取り組みを実践しています。

< アンケート >



つながりは大切 — なのに 交流が少ない

いきいきと安心して暮らせる明日を、共に



鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト

くわしくは、Webサイトでチェック!

鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト

検索



アクティブ・エイジング(鶴甲いきいきまちづくり)プロジェクト運営

岡田修一(副研究科長)・近藤徳彦・長ヶ原誠・片桐恵子・増本康平・岡田章宏(研究科長)・朴木佳緒留(前研究科長)

神戸大学大学院人間発達環境学研究所 / 神戸大学発達科学部
"アクティブ・エイジング"プロジェクト室
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11

報告リーフレット企画・制作
増本康平・片桐恵子・岡田修一

研究助成

日本学術振興会「平成24-平成26年度科学研究費補助金基盤研究(A)」
平成25年度・平成27年度神戸市灘区
「大学と連携したまちづくりチャレンジ事業」

本プロジェクトは、神戸市灘区役所、鶴甲連合自治会、住民サポーターのみなさんのご協力のもと、実施しています。
心より感謝いたします。

神戸大学
アクティブ・エイジング
プロジェクト



つる かぶと
鶴甲
いきいき
まちづくり
プロジェクト

神戸大学大学院人間発達環境学研究所 / 神戸大学発達科学部

1 実践：タウンミーティング

地域の方々のリアルな声を これからの暮らしに役立てる

2012年に行ったアンケートから、人のつながり、防災・避難方法、健康についてなど…地域の課題や住民の方々の関心事が明らかに。住民、行政、大学間で意見を交換するために、タウンミーティングを4回開催しました。この取り組みがきっかけとなり、2014年には、神戸大学発達科学部の体育館が災害時の「指定収容避難所」に。住民の方々と共に地域の課題を解決していく、新たな道筋が生まれました。



第1回 2013年3月23日(土)
住民アンケート結果から
「衣・食・住」について考える・意見交換会

第2回 2013年6月16日(日)
住民アンケート結果から
「防災とメンタルケア」について考える・意見交換会

第3回 2013年8月4日(日)
住民アンケート結果から
「地域における人と人とのつながり」について考える・意見交換会

第4回 2014年11月30日(日)
鶴甲での地域避難
～必要性・避難の方法・避難先～意見交換会

2 実践：アカデミック・サロン

学びと実践、活躍の場を創造 住民主体のネットワークづくりを支援

タウンミーティングで集められた住民の方々の意見をふまえ、2013年からは大学が持つ「ひと・空間・専門性」をいかした地域交流の場としてアカデミック・サロンを開講。2015年6月までにのべ1000人以上が参加し、避難訓練、園芸教室、芸術フェスタ、健康教室、鶴甲1000人ラジオ体操、ひと味違うお月見大会など…合計20以上のバラエティ豊かなプログラムが行われました。



第4回 芸術フェスタ



第11回 鶴甲1000人ラジオ体操



第14回 大学でひと味違うお月見会



連続教室：園芸教室「野菜や草花を育ててみよう」

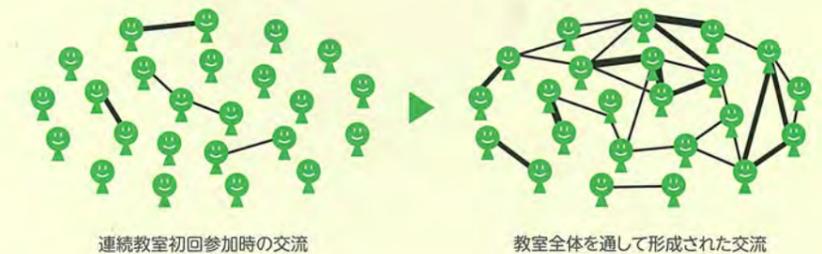
アカデミック・サロン開催による変化は？

アカデミック・サロンの効果を検証するため、開始前と開始1年後にアンケート調査を実施。アカデミック・サロン参加者に、近隣の方々との交際量(助け合えるご近所さんの数や訪問しあう人数)などの項目で、統計的に意味のある増加が認められました。



徐々にコミュニケーションが生まれ、活発化

連続講座のアカデミック・サロンでは、参加者の交流を客観的に計測。初回時はそれほど交流が見られませんでした。回を重ねるごとに活発に。最終的には、参加者全員に他の参加者との交流がうまれました。



2013年	
第1回	11月17日(日) 開講式
第2回	12月8日(日) 健康ふれあいフェア
第3回	12月15日(日) ヒッグス粒子について
2014年	
第4回	2月16日(日) 芸術フェスタ「ブーメスはお好き」
第5回	3月2日(日) 「振り込め詐欺」あなたは大丈夫?
第6回	3月16日(日) 短い昼寝と軽い運動でぐっすりねむろう!
第7回	5月25日(日) 現在の子育て事情～お孫さんへのまなざしとサポート～
第8回	6月22日(日) めざせ、いつまでも現役 たのしい!!かんたん!!健康教室
第9回	6月29日(日) ～神戸大学大学院生企画～KOBE鶴甲いきいき交流会
第10回	7月6日(日) たった3分で効果抜群!!正しいラジオ体操を学ぼう
第11回	7月20日(日) 鶴甲1000人ラジオ体操
第12回	7月26日(土) めざせ、いつまでも現役 たのしい!!かんたん!!健康教室
第13回	8月3日(日) 毎日歩いて健康になろう 鶴甲ウォーキングMAP作り
第14回	9月8日(月) みんなでたのしもう! 大学でひと味違う お月見会
2015年	
第15回	2月21日(土) 鶴甲体操(鶴甲わくわく健康運動)お披露目会
第16回	2月28日(土) 芸術フェスタ2015 シューベルトはお好き
第17回	6月28日(日) ～神戸大学大学院生企画～みんなで楽しもう!新しい遊び

20回以上の
サロンを開催!
のべ1000人以上の
方々が参加!

連続講座	第1弾	2014年5月24日(土)6月14日(土)7月5日(土)
	第2弾	2014年9月27日(土)10月25日(土)11月15日(土)12月13日(土)
	第3弾	2014年10月11日(土)10月18日(土)11月8日(土)11月15日(土)
	第4弾	2015年5月23日(土)6月20日(土)7月4日(土)

第1回 2014年11月30日(日) 防災避難訓練

現在のプロジェクト

1. プロジェクト名：鶴甲いきいきまちづくり-アクティブエイジングを目指して

メンバー：岡田修一，近藤徳彦，長ヶ原誠，片桐恵子，増本康平，学外研究者

期間：2010 年度～2020 年度

内容：オールドニュータウンである鶴甲地区を対象に，多世代が心身ともに健やかで将来の希望に満ちた，安全に暮らせるまちづくりを支援するものである。アカデミック・サロン（大学内で行うイベント）を鶴甲地区の住民の学びと活動の場の基礎とし，大学をコミュニティの中心に位置付け，このサロンを通して，住民同士のネットワークを形成するとともに，サロンの継続に必要なファシリテーターを養成し，住民が企画・運営するコミュニティ活動を支援する。

2. プロジェクト名：住民ネットワーク形成の客観的検証方法の確立

メンバー：増本康平，岡田修一，近藤徳彦，長ヶ原誠，片桐恵子，木村哲也，古谷真樹，研究科共同研究者 4 名，

期間：2015 年度～2017 年度

内容：ウェアラブルセンサデバイスによって対面コミュニケーション行動データを自動収集し，ネットワーク解析を行うことで住民交流の現状や変化，キーパーソンを把握し，支え合い・助け合いの基盤となる住民ネットワークの活性化につなげる。

3. プロジェクト名：男女の違いや個人差を考慮した健康増進支援プロジェクト

メンバー：近藤徳彦，岡田修一，中村晴信，古谷真樹，井上真理，齊藤誠一，他

期間：2015 年度～2019 年度

内容：健康行動（食・睡眠・運動）を支援するため，これらに関係する環境を工夫することにより健康を支援する方法を提案する。その際，これまで十分な情報が得られていない男女の違いや個人差からアプローチする。

4. プロジェクト名：高齢者の身体システム機能維持・向上への学際的プロジェクト

メンバー：木村哲也，佐藤幸治，学外研究者

期間：2015 年度～2017 年度

内容：高齢者の身体システム機能の維持・向上に対して，基礎研究及びその成果に基づいた社会実装を，応用生理学，運動生理・生化学，バイオメカニクス，生体工学の各観点を統合して学際的に実施する。現在取り組み中の具体的課題は，立位バランス神経制御則の解明や

高齢者の筋機能の向上である。

5. プロジェクト名：都市住居高齢者の日常活動の国際比較

メンバー：片桐佳子，福沢愛，海外研究者1名

期間：2015年度～2017年度

内容：都市に居住する高齢者がどのような日常活動を行っているのか，その活動量はどの程度か，活動がどのように気分や健康に関連しているか，などの実態の解明とそれらの関連を，日本（神戸）と韓国（ソウル）との国際比較から検討する。

6. プロジェクト名：超高齢化社会を見据えた持続可能なごみ処理施策の提案

メンバー：田畑智博，片桐恵子

期間：2015年度～2016年度

内容：高齢者世帯の増加が将来の自治体のごみ処理施策に及ぼす環境的・経済的影響を，シミュレーション分析により明らかにする。ごみ分別等の住民負担の限界と対策の検討を通じて，超高齢化社会に相応しい持続可能な自治体のごみ処理施策を提案する。

7. プロジェクト名：関西ワールドマスタースゲームズ2021レガシー創造支援研究

メンバー：長ヶ原誠，岡田修一，近藤徳彦，片桐恵子，増本康平，学外研究者3名

期間：2015年度～2022年度

内容：2021年に関西広域で開催が決定した生涯スポーツの国際大会がもたらすレガシー（遺産）創造に向けた振興事業アクションリサーチの展開と効果検証のモニタリング評価を実施し，成人・中高年者を対象とした参加型のスポーツメガイイベント開催が個人と地域の活性化に及ぼす影響過程を検証する。

8. プロジェクト名：高齢期の意思決定バイアスの解明と自律に向けた生涯学習プログラムの開発

メンバー：増本康平，学外研究者2名

期間：2015年度～2017年度

内容：高齢者の意思決定バイアスの特徴を明らかにし，高齢者に適した意思決定の支援方法を明確にする。最終的には，高齢期の自律を目標とした「選び方を選ぶ」生涯学習プログラムを開発する。

9. プロジェクト名：マスタース甲子園によるアクティブエイジング活性化の検証

メンバー：長ヶ原誠，学外研究者3名

期間：2015年度～2017年度

内容：高校野球部OBクラブの拡大を目指して始動したマスタース甲子園の各地方予選・全国大会の開催が及ぼすアクティブエイジングに関わる諸効果を検証し，スポーツ同窓会結成支援による活動的な加齢文化の推進に着目した生涯スポーツプロモーション事業の可能性と課題を提示する。

10. プロジェクト名：サードエイジ・プロジェクト

メンバー：片桐佳子，学外研究者2名

期間：2015年度～2019年度

内容：これまでの高齢者とは異なる新しいシニア層である団塊世代以降の人のライフスタイルや志向を把握し，定年後の社会参加や就労について検討し，新たなシニアの社会的な役割を提案する。

11. プロジェクト名：異世代間交流のプロジェクト

メンバー：片桐佳子，学外研究者1名，海外研究者1名

期間：2015年度～2019年度

内容：家族や地域の絆の減衰が指摘されている中で，異世代間交流の実態と課題を検討する。異世代間交流を活発化するような age friendly university のあり方について，アイルランドとの国際比較を実施しながら探索する。

アクティブエイジング研究センター 設立記念シンポジウム

2016 **2/21** (SUN)
会場：神戸大学百年記念会館



Alex Ross 氏



Gyounghae Han 氏



秋山弘子 氏

プログラム (通訳あり)

10:30 開会アナウンス

10:35 設立記念シンポジウムに寄せて

神戸大学理事・副学長：小川 真人(研究・産学連携担当)

10:45 開会挨拶 神戸大学大学院 人間発達環境学研究科長：岡田 章宏
(神戸大学大学院 人間発達環境学研究科附属発達支援インスティテュート長)

10:55 アクティブエイジング研究センター構想(センター長)：近藤 徳彦
(神戸大学大学院 人間発達環境学研究科教授)

11:15 基調講演

「アクティブエイジングの歴史と進化」

Alex Ross 氏

WHO 神戸センター所長

12:15 昼食

13:00 アクティブエイジング研究スクエア・ポスターセッション I

13:30 特別講演 1

「アクティブエイジング社会のために大学は何ができるのか？」

Gyounghae Han 氏

ソウル大学 応用老年学・退職研究センター所長

14:30 特別講演 2

「長寿社会に生きる」

秋山弘子 氏

東京大学高齢社会総合研究機構特任教授

15:30 「アクティブエイジング研究ハブ拠点に向けて」

17:00 アクティブエイジング研究スクエア・ポスターセッション II

18:00 レセプション(瀧川記念会館)